

雲中地区防災福祉コミュニティ地域おたすけガイド

平成 28 年 3 月作成

雲中ふれあいのまちづくり協議会防災部会（神戸市）

（雲中防災福祉コミュニティ）

地域おたすけガイドの活用に当たって…

- (1) 地域おたすけガイドは、地域のみなで災害時に活動する際に、活用するものです。災害時は、周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- (2) このおたすけガイドは、災害時の活動をより効果的にするために、地域で検討して作成しましたが、記載している内容は完全ではありません。
- (3) 防コミで繰り返し訓練を実施し、地域おたすけガイドの内容を検証して、地域に適したガイドにするために、今後見直していきます。



雲中地区防災福祉コミュニティ地域おたすけガイド

防コミ運営本部設置基準

- ・震度5弱以上若しくは兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された場合、地震による災害が発生し、又は災害が拡大する恐れがある場合。
- ・特別警報が出された場合。
- ・上記のほか、大雨等で神戸市に避難準備・高齢者等避難開始、土砂災害警戒情報が発表された場合。

活動方針

阪神・淡路の教訓で、近隣の方々に助けあうことはとても重要です。しかしながら、**周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分達の出来る範囲で防災活動を行いましょう!!**

防コミ運営本部 設置場所	雲中小学校
防災資機材庫 の場所	雲中地域福祉センター、雲中公園、熊内集会所（憩いの家）、 熊内台南公園、徳光院
避難所	葺合中学校、布引中学校、雲中小学校、中央小学校
耐震性防火水槽	生田川公園、野崎公園
給水拠点・ いつでもじゃぐち	布引給水拠点
災害時要援護者 名簿保管場所	
防災行政無線 保有者	雲中地域福祉センター、

災害初動対応

■ 風水害

□は、その行動が完了したら✓をつける。

【災害発生前】

1 防コミ運営本部の立ち上げ

- 避難準備情報や避難勧告などが発令されたら防コミ運営本部立ち上げに向けて、次頁の連絡網に沿って、招集の連絡を行う。

■ 避難勧告の種類

避難準備・高齢者等避難開始	災害発生の可能性がありますので、避難できるように準備してください。避難に時間がかかる方は早めに避難しましょう。
避難勧告	災害発生の可能性が高まっています。避難を開始してください。
避難指示 (緊急)	いまにも災害が発生する可能性があります。すぐに避難してください。 ※大雨などで避難所への避難が危険なときは、崖から離れた2階以上の部屋に避難しましょう。

- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報収集班、安否確認班等の班長を決定する。
※ 防災部会の情報班の班長が情報収集班の班長を、救出避難班の班長が安否確認班の班長を担うことを基本とするが、召集した人員に応じて適宜班長を決定する。
- 本部に地域の地図、防災マップなどを配置する。
また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。

2 情報収集・伝達 → p10 参照

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 収集した情報は、有線電話、携帯電話等により、防災部員に伝達する。

■ ホワイトボード等での情報整理の例

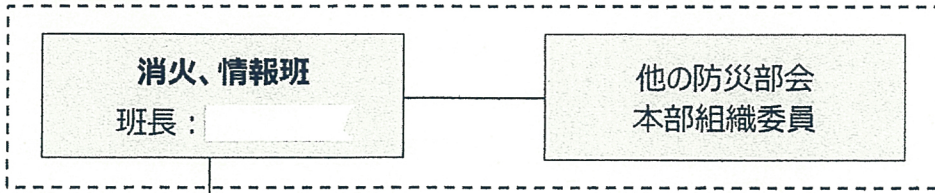
時間	報告者	場所	状況	対策
10:05	A	〇〇方	連絡が取れない	安否確認が必要
10:10	B	〇〇町〇〇番付近	ブロック塀倒壊	
...				

3 資機材等の確保

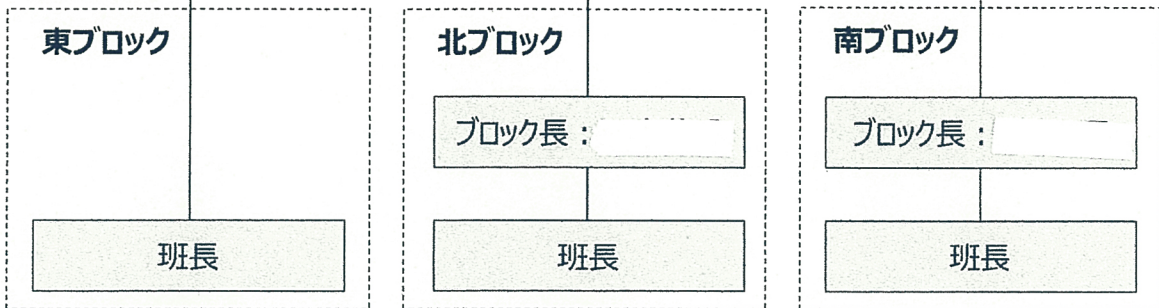
- 災害発生時に備えて、防災資機材の確保や非常食等の確保をする。

■ 連絡網

【本部組織】



【各ブロック】



※ 氏が不在の時は、代理の役割を果たす。

■ 防災部会本部組織

活動班の名称	役職	氏名
本部	防災部会長	
消火、情報班	班長	
	班員	
救出避難班	班長	
給食給水班	班長	

■ 防災部会ブロック組織

活動班	東ブロック	北ブロック	南ブロック
消火班	班長： _____	班長： _____ 班員： _____	班長： _____ 班員： _____
救出避難班	班長： _____ 班員： _____	班長： _____ 班員： _____	班長： _____ 班員： _____
情報班	班長： _____	班長： _____	班長： _____
給食給水班	班長： _____ 班員： _____	班長： _____ 班員： _____	班長： _____ 班員： _____

【災害発生直後】

1 防コミ運営本部による指揮

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 防災活動が可能な市民を防災本部に召集し、情報収集班、安否確認班など必要となる班を編成する。
※ 防災部会の情報班と給食給水班が情報収集班を、消火班と救出避難班が安否確認班を担うことを基本とするが、召集した人員に応じて適宜班編成を行うこととする。
- 各ブロックへ情報収集班と安否確認班を派遣し、地区内の被害状況、安否の状況を整理する。
- 被害の状況に応じて、活動内容の具体的指示（被災者の救出・救護、要援護者の避難支援等）を出す。

集まった市民による班行動

■ 情報収集・伝達 → p9 参照

- 有線電話、携帯電話、現地の確認等により、各地区内の被害状況を調査し、本部へ報告を行う。

■ 安否確認 → p10 参照

- 民生・児童委員等と協力し住民の安否確認を行う。
* ドア等に安否確認済みの目印をつける、安否不明者宅に連絡票を張るなどによる区別も効果的です。

■ 救出・救護 → p12 参照

- 二次災害に注意しながら、各班で防災資機材を使用し、被災者を救出する。
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

2 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報等を区役所や消防署に連絡する。
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

3 避難所のたちあげ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所をたちあげる。
- 避難者名簿を作成する。

■ 主な緊急時連絡先

消防 … TEL : 119、FAX : 392-1119

警察 … TEL : 110、FAX : 382-1110

区役所 … TEL : 232-4411

FAX : 222-6825

災害テレホンセンター（避難情報、避難所開設情報）

… TEL : 0570-078-500

雲中小学校 … TEL : 231-3441

蒼合中学校 … TEL : 241-0444

災害初動対応

■ 地震

□は、その行動が完了したら✓をつける。

【災害発生直後】

個人の行動

1 地震発生直後の安全の確保

- 火を使用している場合は、可能な限り火を止める。
- 地震の揺れを感じたら、まず、丈夫なテーブルの下に隠れるなど、身の安全を確保する。
- 家族の安全を確認する。
- 火災が発生すれば消火器等で初期消火を行う。
- ラジオなどで情報を確認する。

防災福祉コミュニティとしての活動

1 防コミ運営本部による指揮

- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報収集班、防災資機材班等の班編成を行う。
※ 防災部会の情報班と給食給水班が情報収集班を、消火班と救出避難班が防災資機材班を担うことを基本とするが、召集した人員に応じて適宜班編成を行うこととする。
- 本部に地域の地図、防災マップを配置する。
また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。
- 防災活動が可能な市民を防災本部に召集し、情報収集班、安否確認班など必要となる班を編成する。
- 各ブロックへ情報収集班と安否確認班を派遣し、地区内の被害状況、安否の状況を整理する。
* 地震時は有線電話、携帯電話は使用できないと考えた方がよいです。
- 被害の状況に応じて、活動内容の具体的指示（被災者の救出・救護、消火活動等）を出す。

集まった市民による班行動

■ 情報収集・伝達 → p10 参照

- 現地の確認等により、各地区内の被害状況を調査し、本部へ報告を行う。

■ 安否確認 → p11 参照

- 民生・児童委員等と協力し住民の安否確認を行う。
* ドア等に安否確認済みの目印をつける、安否不明者宅に連絡票を張るなどによる区別も効果的です。

■ 消火活動 → p12 参照

- 各班で耐震性防火水槽の小型動力ポンプやあらゆる消火器具等を活用し初期消火を行う。
- 出火場所を確認する。
- 消火活動人員の割り振りをする。
* 火災の規模によっては消火器やバケツリレーでの消火も重要です。

■ 救出・救護 → p13 参照

- 二次災害に注意しながら、各班で防災資機材を使用し、被災者を救出する。
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

2 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報等を区役所や消防署に連絡する。
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

3 避難所のたちあげ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所をたちあげる。
- 避難者名簿を作成する。



初動対応後（避難所の運営）

■ 共通事項

□は、その行動が完了したら✓をつける。

【数時間後～3日（72時間）ぐらいまで】

1 役割分担の見直し

- 防災福祉コミュニティの役員の集結状況や災害の状況に応じて役割を、見直す。

2 避難所の運営

- 学校関係者、区役所職員や災害ボランティアと協力して避難所の運営にあたる。
- 女性や子育て家庭への配慮
- 同行避難してきたペットへの配慮
- 災害時要援護者への配慮

要援護者ご本人やご家族の意向を踏まえ、避難所内に一般の方と分けした要援護者のための福祉避難室を設けるなどの対応：保健室の利用など

※特に、知的や精神、発達障がい者のうち、集団生活に対応することが困難な方、透析患者やオストメイト（人工肛門など）などの内部障がい者について、特別な配慮が必要であることを、他の避難者に理解していただくことが大切。

- 福祉避難所（次頁参照）を必要とする方について、避難所を巡回する市の保健師へつなぐ。

3 生活情報の収集

- 生活情報の収集及び住民への周知

4 防火・防犯パトロール

- パトロール班を結成し、交代で地域内のパトロールを行う。

「福祉避難所」について

神戸市では、避難所での生活において、何らかの特別な配慮を要する方のための二次的避難所として、地域福祉センターや特別養護老人ホームなど、357箇所を「福祉避難所」に指定しています（平成29年3月末時点）。

福祉避難所の対象者は、市の保健師が避難所で行う健康調査等をもとに、ご本人やご家族の意向や状況を踏まえ、市が決定します。

要援護者から福祉避難所への直接避難の相談があった場合は、区災害対策本部へ連絡いただくよう、対応をお願いします。

※福祉避難所の開設は、対象者の人数や施設の状況、対応可能な人員や物資の確保の状況等を踏まえて、市が判断します。災害時に常に開設される訳ではありませんので、要援護者の方を含め、まずは一般避難所へ避難していただくことになります。



情報収集・伝達

- 1 ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
- 2 地域内の災害情報を把握する。

情報収集・伝達手順

1 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

(1) ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

(2) 行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に出向くなどして、公開されている情報を収集する。

(3) 各ブロックからの情報収集

情報収集班を各ブロックに派遣し、現状確認により情報を収集する。

2 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。

安否確認

1 安否確認情報の収集

2 安否不明者の確認

事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し
安否確認を行う

訪問先での確認手順

1 外観の確認

建物に甚大な被害がないかを確認してください。

2 声かけ・呼びかけ確認

門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。

3 ドアをノックする

応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックしてみてください。

4 庭、勝手口等の確認

状況が把握できないときは、庭、勝手口などの確認をしてください。

5 確認シール貼付

確認した状況に応じて、玄関ドアにシールを貼付してください。

必ず右上部付近に貼付

【シールの色分け】



救助・支援の必要あり



安否の確認できず



確認済み・支援の必要なし



消火活動

- 1 ブロック、自治会単位で耐震性防火水槽の小型動力ポンプ等を活用し、初期消火を行う。
- 2 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

消火活動手順

1 消火用水の選定

- (1) 火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側の消火用水を使うなど風向きに注意する。
- (2) 河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かび上がらないようにする。
- (3) ポンプから水面までの高低差はC級で7m以内、D級で4m以内を目安とする。

2 ホースの延長要領

- (1) 道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- (2) ホースの結合は漏水しないように確実に行う。

3 送水の時期

- (1) ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水する。
- (2) 放口コックを開けるときは筒先の反動力を考え徐々に行う。

救出・救護活動

- 1 ブロック、自治会単位で防災資機材（ジャッキ、のこぎり、バール等）を活用し、協力して救出活動を行う。
- 2 救護（応急手当）を実施する。

救出・救護手順

1 被害の実態把握

- （1）倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- （2）建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- （3）二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

2 二次災害の防止

- （1）木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- （2）柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- （3）火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

3 要救助者の救出

要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。

要救助者を無理に引き出そうとしない。

4 応急手当

出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

災害時要援護者の避難支援

自宅の損傷の状況等により、避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う。

避難支援のポイント

1 一人暮らし高齢者

迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。

2 寝たきりの要介護高齢者

避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。

3 認知症の人

安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。

4 視覚障がい者

音声による情報伝達や状況説明が必要。避難誘導等の援助が必要。

5 聴覚障がい者

補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。

6 言語障がい者

手話、筆談等によって状況を把握することが必要。

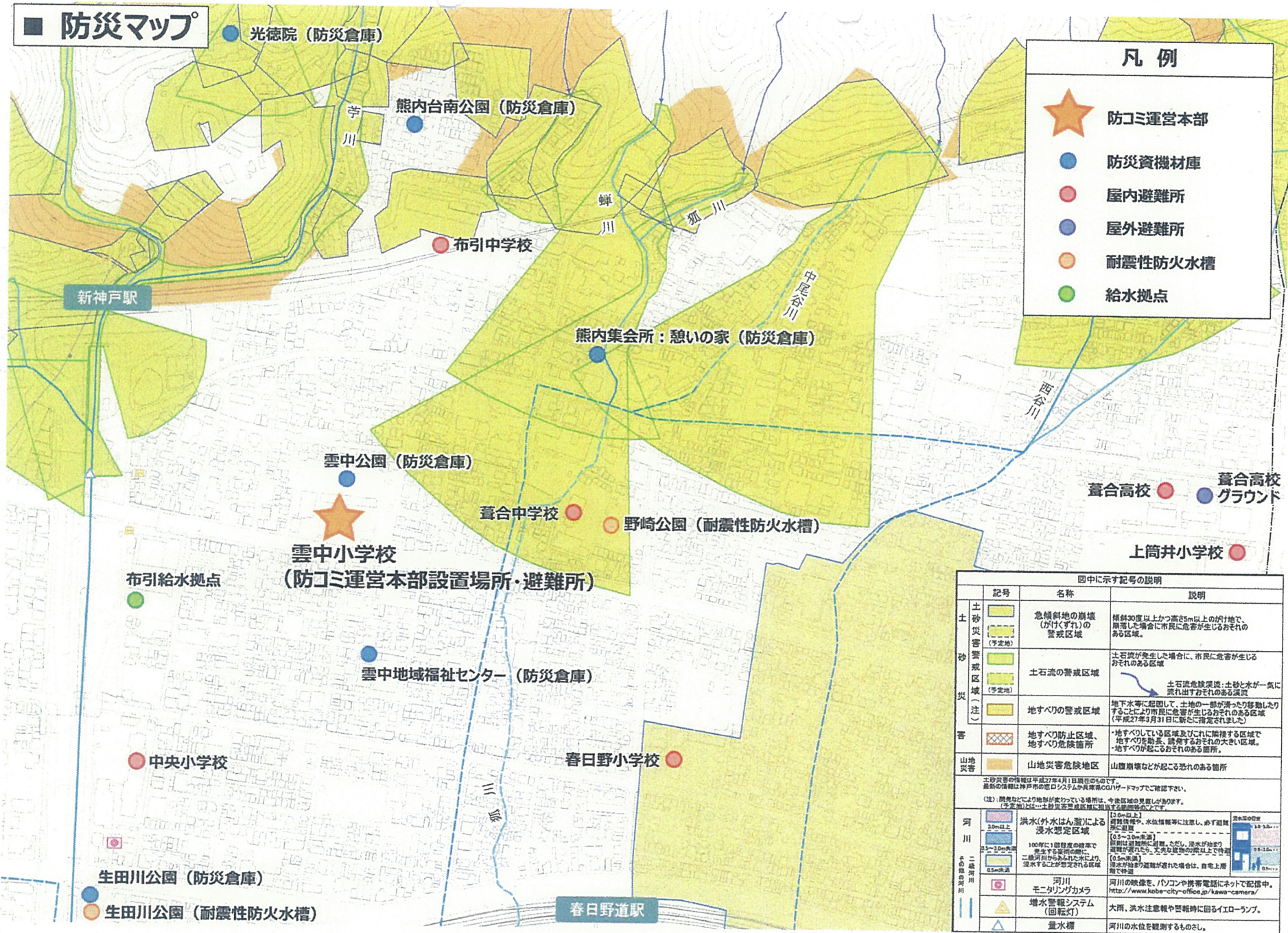
7 在宅人工呼吸器使用者

避難所での電源確保が必要。














防災マップ

凡例

-  防コミ運営本部
-  防災資機材庫
-  屋内避難所
-  屋外避難所
-  耐震性防火水槽
-  給水拠点



図中に示す記号の説明

記号	名称	説明	
	急傾斜地の崩壊(がけくずれ)の警戒区域	傾斜30度以上かつ高さ5m以上のがけ地で、崩落した場合に市民に危害が生じるおそれのある区域。	
	土石流の警戒区域(予定地)	土石流が発生した場合に、市民に危害が生じるおそれのある区域。	
	土石流の警戒区域(実地)	土石流危険渓流: 土石と水が一気に流れ出すおそれのある渓流。	
	地すべりの警戒区域	地下水等に起因して、土地の一部が滑ったり移動したりすることにより市民に危害が生じるおそれのある区域(平成27年9月31日に新たに指定されました)	
	地すべり防止区域、地すべり危険箇所	*地すべりしている区域及びこれに隣接する区域で地すべり発生、誘発するおそれの大きい区域。 -地すべりが起こるおそれのある箇所。	
	山地災害危険地区	山腹崩壊などが起こる恐れのある箇所	
<small> 本防災マップの情報は平成27年4月1日現在のもので、最新の情報は神戸市の電子システムから兵庫県COVARDマップでご確認下さい。 (注) 標記により地形が異なる場合は、今後区域の見直しがあります。 (参考) 国土交通省が定める国土利用計画に基づき作成されています。 </small>			
	 30m以上	洪水(外水はん濫)による浸水想定区域	浸水想定区域
	 10m以上	100年に1回程度の洪水で発生する浸水想定区域	浸水想定区域
	 5m以上	二河川間からあふれた水により、浸水することが想定される区域	浸水想定区域
	 0.5m未満	河川	河川の氾濫を、パソコンや携帯電話にネットにて配信中。 https://www.kobe-city-office.jp/kawa-camera/
	増水警報システム(回転灯)	大雨、洪水注意警報や警報時に回るイエローランプ。	
	量水標	河川の水位を観測するものとし。	